東日本大震災に寄せて

全国商業高等学校長協会　公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長　森田　聖一（東京都立荒川商業高等学校長）

１．はじめに

日頃より全国商業高等学校長協会並びに公益財団法人全国商業高等学校協会の事業につきまして，ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。お陰様をもちまして，平成 23 年度の全商協会の事業も順調に進行しております。これも全国の先生方のご理解によるものと深く感謝申し上げます。引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

まず，本年３月 11 日に発生しました東北地方太平洋沖地震に始まる東日本大震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに，被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。今なお避難所等で不自由な生活を余儀なくされている方々には，一日も早く元どおりの生活ができる日がくることをお祈り申し上げます。

この非常事態に際し，全商協会としてすぐに実行できる支援策として日本赤十字社を通じて災害対策本部に義援金をお送りし，特に被害が甚大でありました岩手県，宮城県，福島県の商業教育研究会 (商業校長会) に対して，４月末に全商協会菅原事務局長とともに私も東北に出向き，直接お見舞いをお届けしてまいりました。

さらに，被災した高校生に対し今年度の全商協会主催のすべての検定試験および認定試験の受験料を免除するという措置をとらせていただきました。不幸にして被災した高校生に対し，何が直接的な支援になるかということを役員会で長い時間をかけて検討して出した結論であります。

このような状況の下で，全国規模の大会やイベントが中止もしくは無期延期という措置がとられる中，全商協会本部として平成 22 年度末および 23 年度の諸行事につきましていかなる措置をとるべきか熟慮いたしましたが，全商協会は今できることを粛々と実施し，「被災地からも各種の全国協議会や競技大会にいつでも参加していただきたい」，「これを目標に頑張っていただきたい」との思いから，すべての行事を予定どおり実施するとの結論に至りました。このような事情から年度末の各種研究協議会・研究大会を予定どおり実施させていただき，また，23 年度のすべての事業を予定どおり実施することといたしました。

この夏に本協会主催の簿記，珠算・電卓，情報処理，ワープロの５部門の全国競技大会を開催いたしましたが，いずれの大会にも被災地から選手が参加し，堂々と競技に臨んでいる様子を見て，改めて競技大会を開催してよかった，これらの大会が被災した生徒たちの励みになったということを実感いたしました。さらに，入賞して例年よりも嬉しそうな生徒の笑顔を見てさらにその意を強くいたしました。

２．４月末の東北の状況

前述のとおり，４月 27 日 (水), 28 日 (木) の２日間，全商協会菅原事務局長と私の二人で，岩手県の盛岡商業高校，宮城県の仙台商業高校，福島県の福島商業高校にお見舞いをお届けに行ってまいりました。東北新幹線が東京から仙台までしか復旧していませんでしたので，仙台から盛岡までは東北自動車道を通る直行バスで行くこととしましたが，東北自動車道はいたるところで道路が陥没しており，応急処置は施してあるもののスムーズに走行できる状況ではありませんでした。街中においてもショッピングセンターの土台がむき出しになっていたり，ほとんどの橋は大きな段差ができていたりしました。改めて被害の甚大さを痛感いたしました。街中でこれだけの被害が出ているのですから，津波の被害にあった地域はいかばかりかと心が痛みました。

お邪魔した学校はいずれも校舎は一見何の被害も受けていないように見えましたが，仙台商業では玄関入り口のメイン階段が地震によるひび割れで使用できなくなっていたり，ショーケースの中のトロフィーが倒れていたり，福島商業では放射性物質の問

仙台商業高校の様子

題で体育の授業や部活動でグランドが使えなかったり，小高商業がサテライト授業という形式で福島商業に避難してきているような状況でありました。

このような状況を目の当たりにして，改めて今回の大震災の爪あとの大きさ，深さを痛切に感じ，東北を中心とする被災地へ向けて，自分のできることを無理せず，温かく，かつ一過性のものとはせず継続して支援していかなければならないと痛感いたしました。

３．神奈川県商業教育研究会の取り組み

平成 23 年 7 月 30 日 (土)，31 日 (日)，神奈川県の横浜駅と平塚駅において神奈川県商業教育研究会が東北の商業高校生を招待し，「高校生東北商店街」というイベントを開催しました。東北の商業高校生と神奈川県の高校生が協力して，東北の高校生が商品開発したオリジナル商品や地域の物産を販売し，収益を東北の高校の復興に役立てていただくとともに，東北支援の輪を広げていこうという趣旨のイベントであります。東北からの参加校は青森県立八戸商業高校，岩手県立宮古商業高校，岩手県立釜石商工高校，岩手県立水沢商業高校，宮城県一迫商業高校，石巻市立女子商業高校，福島県立福島商業高校，福島県立小高商業高校の８校で，神奈川県からは厚木商業高校，平塚商業高校，相原高校，小田原総合ビジネス高校，高木学園女子高校，藤沢翔陵高校，川崎市立商業高校，横浜市立横浜商業高校，横浜市立みなと総合高校が参加しました。神奈川県教育委員会，横浜市教育委員会，平塚市教育委員会の後援や，多くの企業や団体も協賛し全商協会も協賛団体の一つとして参加させていただきました。

生徒たちの元気な売り声にもつられ，故郷を思い出すかのように東北の物産を買い求めるお客様が後

をたたず，「東北商店街」は大盛況でありました。陳列した商品は横浜会場，平塚会場ともに完売だったということです。全国各地でこのようなイベントが開催されていることと思いますが，今できることを粛々と実行し，長い目で温かく応援していくという神奈川県商業教育研究会の皆さまの姿勢に改めて敬意を表します。また，このイベントを通じて多くの人々に応援されていることに意気を感じ，東北の高校生が東北の復旧・復興に向けて「がんばろう東北！」，「がんばろう日本！」という気持ちを強くしたことを大変嬉しく思っております。

４．むすびに

３月 11 日の地震直後，岩手県宮古市にある市場で鮮魚業を営む方が，直ちに店に陳列してある魚類を無料で地域の方々に差し上げたという話を現地の方からお聞きしました。鮮魚店のご主人は宮古商業高校の卒業生だそうです。非常時であるから人として当然の行動であるとの声もありますが，若い頃から「商業」を学び，「人さまのために」という商人道に基づく立ち振る舞いであったことは間違いありません。私たちはこの国難を乗り切るためにも，商業教育を通じて「がんばろう東北！」，「がんばろう日本！」を力強く実践していこうではありませんか！